

パウロは会堂に入って、三か月間、神の国について堂々と論じ、人々の説得に努めた。しかしある者たちが、かたくなで信じようとせず、会衆の前でこの道を非難したので、パウロは彼らから離れ、弟子たちをも退かせ、ティラノという人の講堂で毎日論じ合った。このようなことが二年も続いたので、アジア州に住む者は皆、ユダヤ人もリシア人も主の言葉を聞くことになった。（使徒 19:8～10）

パウロの第三宣教旅行が始まった。アンティオキアから出発し、ガラテヤ、フリギア地方を巡回して、第一、第二宣教旅行で立ち上げた教会を訪ね、信者たちを励ました。そして、現在のトルコを横断し、西のエフェソに辿り着いた。エフェソは小アジアの首都で、パウロは宣教したいと願っていた町である。彼は第二宣教旅行を終え、アンティオキアへの帰途の途中、エフェソに立ち寄り、会堂に行って御言葉を語った。ユダヤ人たちはパウロの言葉に関心を持ち、しばらく滞在するように求めたが、「神の御心ならば、また戻って来ます」と言って、立ち去った。今、神の御心を得て、エフェソに再度来ることができた。パウロがエフェソに入った時、何人かの弟子たちに会った。彼らに「信仰に入ったとき、聖霊を受けましたか」と聞くと、彼らは「いいえ、聖霊があるということなど、聞いたこともありません」と答えた。パウロが「それでは、どんな洗礼を受けたのですか」と問うと、彼らは「ヨハネの洗礼です」と答えた。アポロは、この時、コリントで主イエスはメシアであると福音を宣教していたが、彼がエフェソにいた時は、ヨハネの悔い改めの洗礼を熱心に説いていたので、アポロの影響を受けていたのではないか。そこでパウロは、「ヨハネは、自分の後から来る方、つまりイエスを信じるようにと、民に告げて、悔い改めの洗礼を授けたのです」と説明した。人々は、パウロの言葉を聞いて、主イエスの名による洗礼を受けた。そして、彼らの上に手を置くと、聖霊が降り、異言を語ったり、預言をしたりした。聖霊が降った証しを経験した人が12人ほどいたという。ヨハネの洗礼は水の洗礼であるが、主イエスの名による洗礼は聖霊に与る救いである。これは、エルサレム教会のペトロとヨハネが手を置くと聖霊が降ったと、使徒たちに権威があったように、パウロの洗礼と按手には、同じような権威があることを伝えている。

パウロはユダヤ人の会堂に入って、三か月間、主イエスがもたらした神の国について堂々と論じ、人々を説得した。ところが、ユダヤ教に固執する人々は、パウロの説き明かしを信じようとせず、会衆の前で激しく非難した。パウロは彼らから離れ、弟子たちも退かせた。そして、ティラノと言う人の講堂で、毎日、主イエスの福音を宣教した。ティラノと言う人がどんな人かは分からないが、少なくとも、パウロに信頼を寄せるエフェソ人であっただろう。このようなパウロの宣教活動が二年も続いた。パウロはエフェソの長老たちに、「だから、私が三年間、あなたがた一人一人に夜も昼も涙を流して教えてきたことを思い起こし、目を覚ましていなさい（使徒 20:31）」と別れの挨拶をしている。パウロはエフェソで3年間、宣教したのではないか。この宣教によって、アジア州に住むユダヤ人もギリシア人も皆、主の言葉を聞くことになった。ヨハネ黙示録には7つの教会の天使に手紙が書き送られている。その中の小アジアにあるスミルナ、ペルガモ、ティアティラ、サルディスなどの教会は、この時代のパウロと彼の弟子たちによる宣教によって立てられた教会であろう。パウロの力強い宣教には圧倒される。